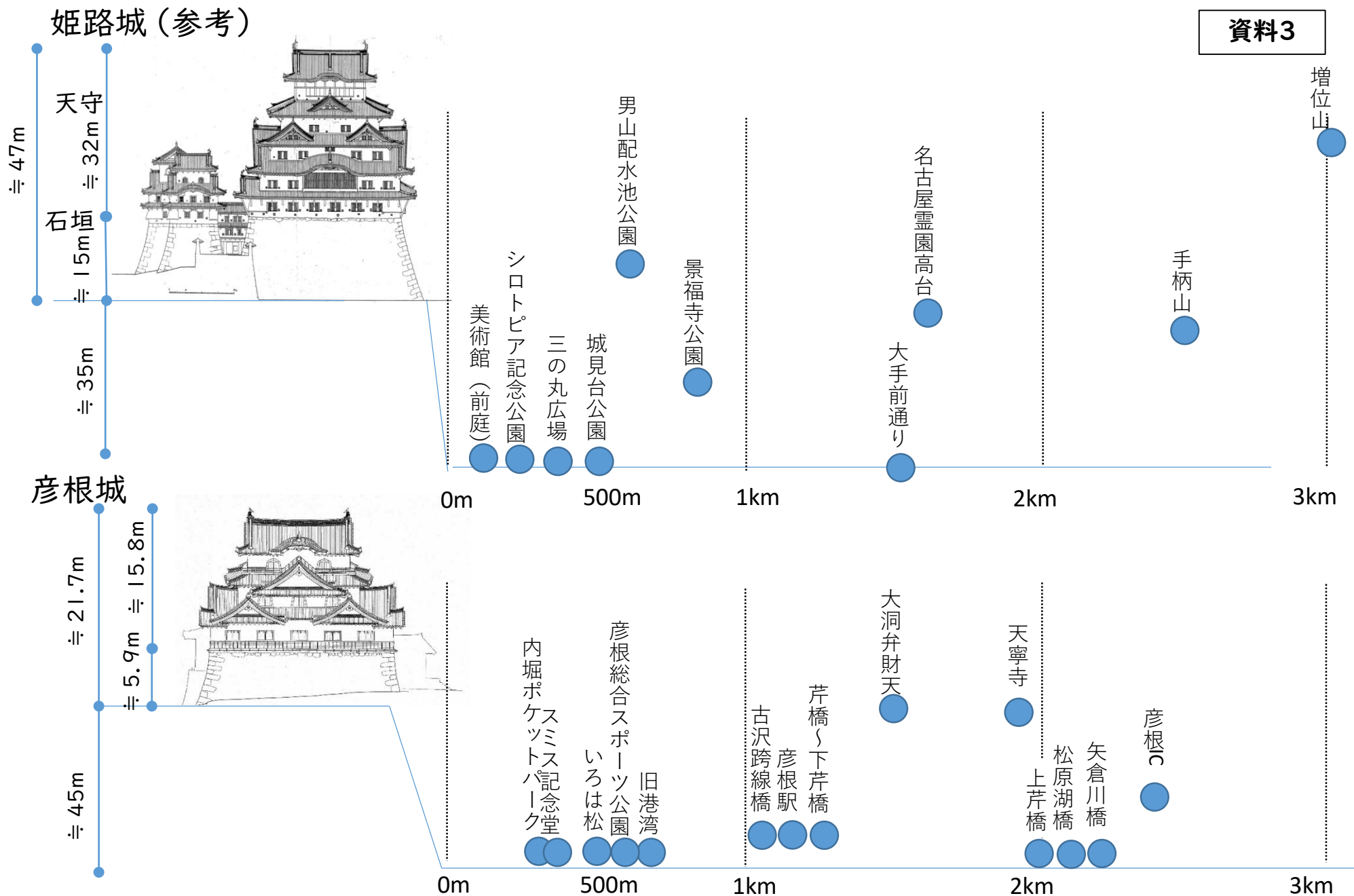


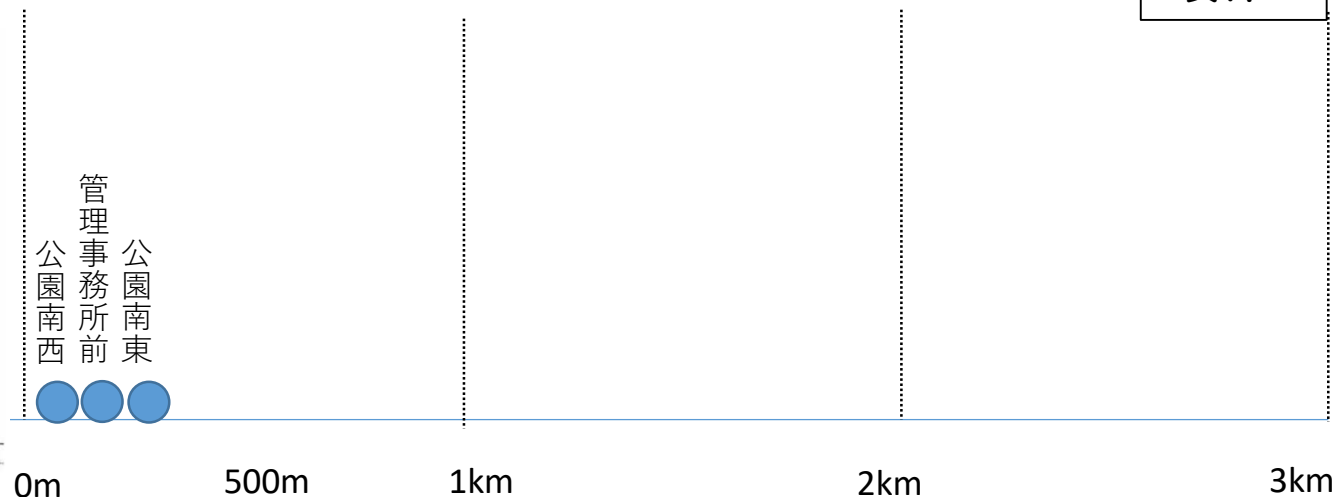
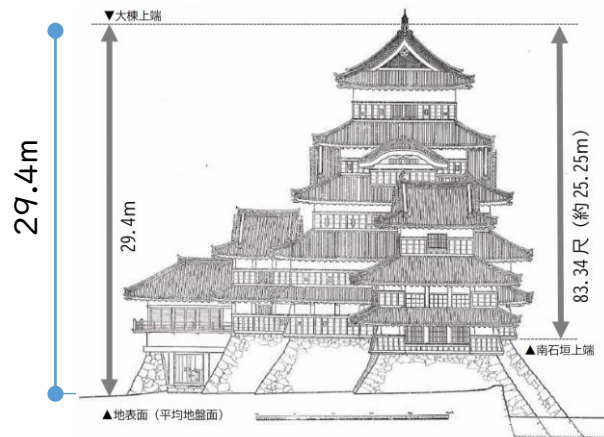
		①彦根市	②松本市	③犬山市	④姫路市
1	視点場数	9→14(R7.4～)	3 (松本城を眺望する視点場) 21 (それ以外)	4※	10※
2	視対象 視点場	【視対象】 彦根城 【視点場】 上芹橋、芹橋～下芹橋、古沢跨線橋、松原湖橋、大洞弁財 天、天寧寺、彦根IC、彦根駅、矢倉川橋、いろは松、スミス記念堂、中堀ポケットパーク、彦根総合スポーツ公園、旧港湾(追加5か所 R7.4～)	【視対象】 松本城 【視点場】 松本城一公園南東一、松本城一管理事務所前一、松本城一公園南 西一 ◎視対象は様々だが、眺望が優れているため指定	【視対象】 犬山城 【視点場】 犬山城下町、木曽川河畔、犬山駅、犬山市役所 ※上記箇所については、現在犬山城が見える範囲として重要な箇所としているが、景観計画に特別な記載はしていない。また、景観計画では、今後、国宝犬山城等の視点場からの眺望を保全するとともに歴史的な資源の周囲における建築物の高さなどについて検討し、地域の歴史的情緒などの保全を目指すこととしている	【視対象】 姫路城 【視点場】 三の丸広場、城見台公園、姫路市立美術館(前庭)、シトロビア記念公園、男山配水池公園、景福寺公園、大手前通り(JR姫路駅)、名古山霊園、手柄山(緑の相談所広場)、増位山(指導白国増位線ポケットパーク) ※景観計画に視点場はないが、世界遺産姫路城十景として、姫路市民からの公募により選定した場所を掲載
3	視対象がどれくらい見える場所を視点場としているか	平山城である彦根城の第一廓内の天守、各櫓ならびに上部石垣天端が広く見える場所。 ※令和7年4月施行する景観計画の改定に合わせ、 <u>市民アンケートを踏まえ</u> 、視点場を上記のほか新たに5箇所を設定します。	特に指定していない		
4	3の理由	本市の象徴的なシンボルである彦根城を望見することができ、市民にも愛着のある景色となっている場所を選定しているほか、主要な幹線道路において彦根城を初めて望める場所も選定している。	—		—
5	眺望範囲	視点場から平山城にある天守、各櫓ならびに上部石垣の天 端が一定見える範囲(角度)としています。なお、特定の視距離で設定していないため、視点場から特定の角度での 規定はしていません。	特に定めていない	②の箇所については、犬山城及び城山の一部が見える	—
6	5に決定した理由	平山城である彦根城の上部全体を望見できる範囲で設定としています。	—	—	—
7	視点高	視点場の標高(シミュレーション等が必要な際は、目線の高さ(1.5m)を考慮しています。)	特に定めていない	犬山城地盤面：83.8m 犬山城下町地盤面：58.1m 犬山駅前地盤面：52.4m 高さ規制…犬山城下町：13m、犬山駅前：31m	—
8	視対象を中心におおよそ何kmの範囲で視点場を設定しているか	高低差や自然地物の関係もありますので、○kmの範囲で視点場を指定しているというものでありませんが、一番遠い視点場で視対象から3km程度離れています。	『新体系土木工学59 土木景観計画』(技報堂、1982)を参考に、近景(0～400m)～中景(400m～約2.5km)の領域を対象としている。	犬山城から犬山駅西口まで約1.05km	—

		⑤会津若松市	⑥伊賀市	⑦福知山市	⑧松山市	⑨大洲市
1	視点場数	2	9	3	1	6
2	視対象 視点場	【視対象】 鶴ヶ城(若松城) 【視点場】 白虎隊自刃の地 飯盛山参道 ◎指定理由は景観計画に記載あり(p.38)	【視対象】 上野城 【視点場】 上野鉄砲町、愛宕神社、長田橋、新長田橋、高倉大橋、JR伊賀上野駅前広場、県道高倉・佐那具線沿道、伊賀上野橋、上野運動公園 ◎視点場指定理由は不明	【視対象】 福知山城 【視点場】 音無瀬橋、土師川橋、福知山大橋 ◎誰もが容易に福知山城を眺望することが出来る場所として選定	【視対象】 松山城 【視点場】 永木橋 ◎永木橋は、市民にとってかけがえのないシンボルである松山城と城山を眺める数少ないビューポイントであるため	【視対象】 大洲城 【視点場】 八幡神社下JR踏切付近、西大洲堤防上、大洲三の丸並木界限、大洲大禅寺界限、肱川橋北端、肱川緑地大洲城対岸 ◎「大洲城天守閣」を美しく眺めることのできるビュー・スポット(視点場)であるため、上記視点場を選定
3	視対象がどれぐらい見える場所を視点場としているか	・縦は鶴ヶ城公園の樹林(約8m)から天守閣頂部(約36m)が見える約28m ・横は鶴ヶ城(若松城)の史跡指定されている範囲が見える約500m	上野城の天守閣が見える範囲	幅は、福知山城の全体及びその左右範囲が見える範囲 縦は、天守及び石積に、城址の一部が見えるまで	松山城を構成する主要な城郭と城山が望めるよう眺望保全ラインを設定している	大洲城(石垣を含む)が隠れない配置 大洲城(石垣を含む)の前景、背景、隣景を阻害しない配置
4	3の理由	飯盛山は白虎隊が最後に鶴ヶ白を望み自刃した幕末の悲劇の地として、市民はもとより多くの観光客が訪れる特別な場所であり、その歴史性を考慮し景観審議会からの答申を受け決定しました	—	福知山城への眺望を保全するため	松山城と城山が望める数少ないビューポイントのため、視点場として設定	—
5	眺望範囲	視点場より視対象を望む最外部の範囲	特になし	幅は、視点場から福知山城のある福知山城公園敷地両端を結んだ角度の2倍角まで 縦は、城地盤から天守頂上までの高さ(22m)の半分の高さ(11m)の部分についての城址が見えるまで	視点場(永木橋)から松山城の「筒井門」と「艮門東続櫓」を結んだ角度	視点場から概ね視野角60°～90°の範囲
6	5に決定した理由	③に同じ	—	他の事例を参考とした	松山城を構成する主要な城郭と城山が望める範囲で設定した	—
7	視点高	視点場の標高+目線の高さ1.5m	視点場の標高+目線の高さ1.4m	視点場の標高+目線の高さ1.5m	視点場の標高+目線の高さ1.5m	基準なし
8	視対象を中心におおよそ何kmの範囲で視点場を設定しているか	約2.8km	—	0.5kmから0.73km	おおよそ1.5km	視点場と影響範囲は別図のとおり



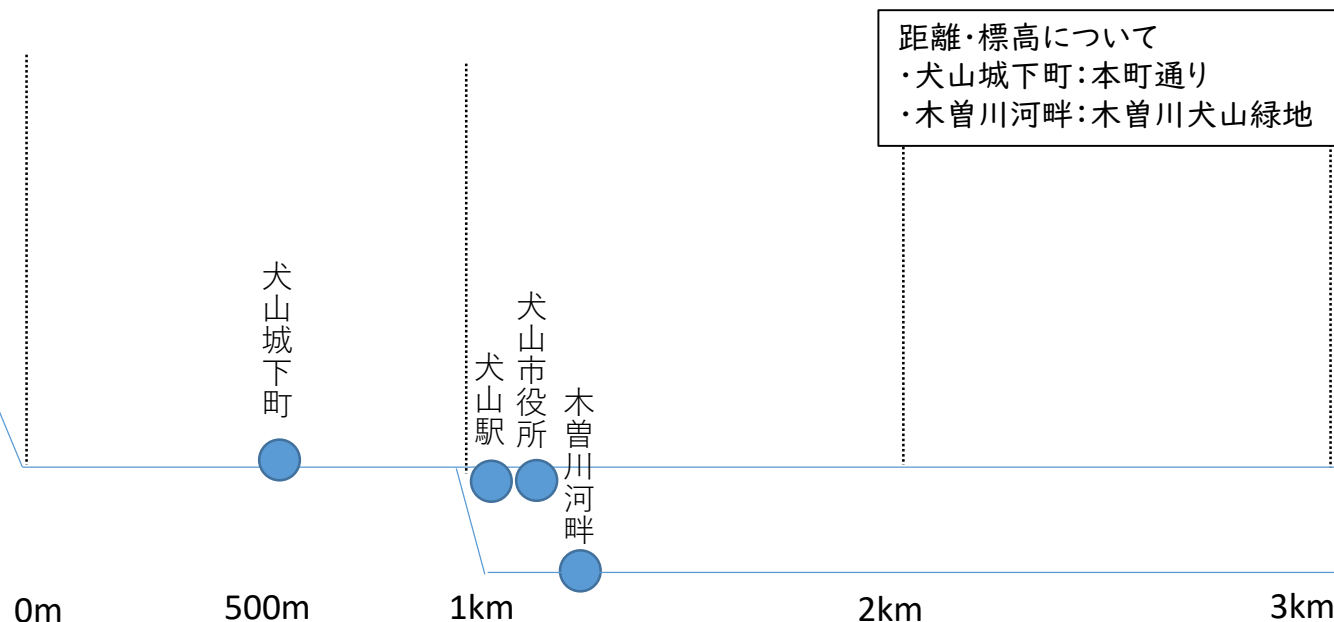
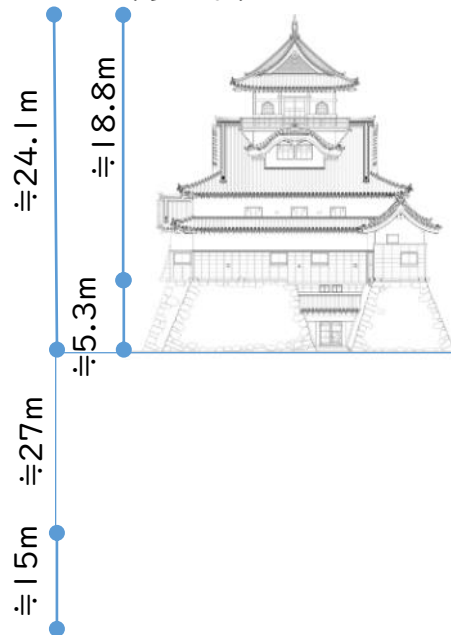
※参考資料として松江市が作成しており、城と視点場の位置関係はおおよそになります。また、城・標高の大きさは実際の縮尺と異なります。 3

松本城



資料3

犬山城(参考)



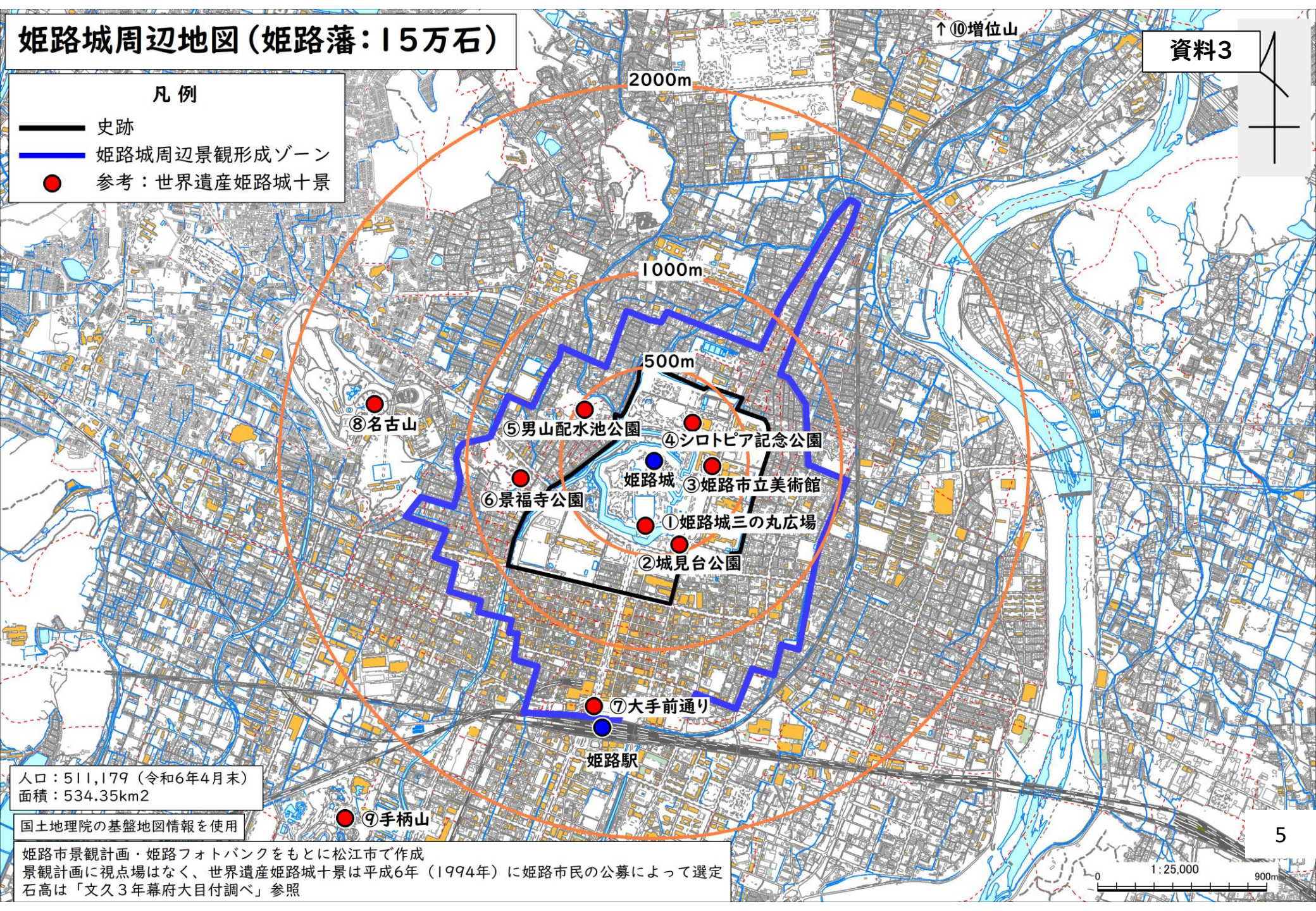
距離・標高について
 ・犬山城下町: 本町通り
 ・木曾川河畔: 木曾川犬山緑地

※参考資料として松江市が作成しており、城と視点場の位置関係はおおよそになります。また、城・標高の大きさは実際の縮尺と異なります。

姫路城周辺地図（姫路藩：15万石）

資料3

- 凡例
- 史跡
 - 姫路城周辺景観形成ゾーン
 - 参考：世界遺産姫路城十景



人口：511,179（令和6年4月末）
面積：534.35km²

国土地理院の基盤地図情報を使用

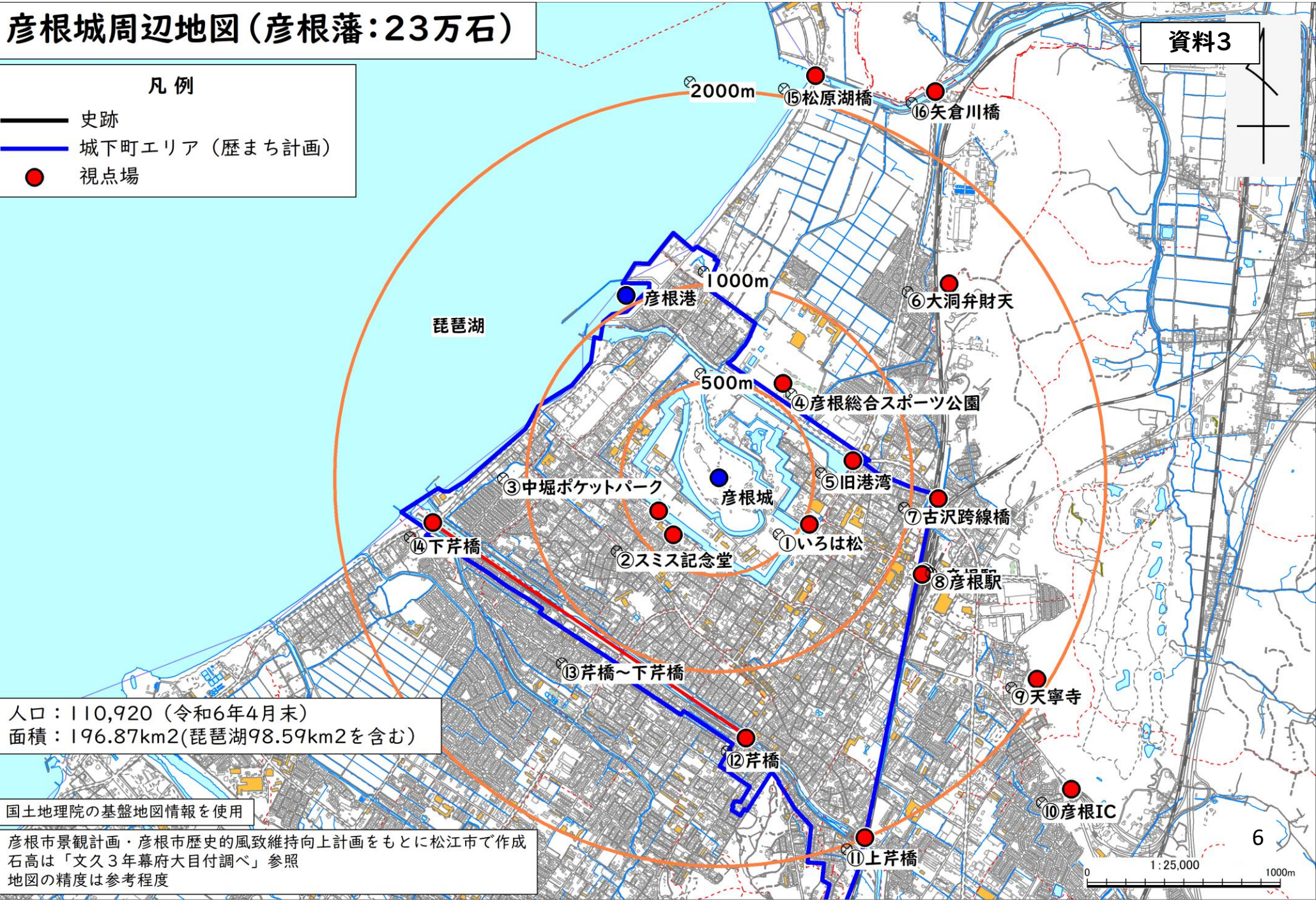
姫路市景観計画・姫路フォトバンクをもとに松江市で作成
景観計画に視点場はなく、世界遺産姫路城十景は平成6年（1994年）に姫路市民の公募によって選定
石高は「文久3年幕府大目付調べ」参照

彦根城周辺地図（彦根藩：23万石）

資料3

凡 例

- 史跡
- 城下町エリア（歴まち計画）
- 視点場



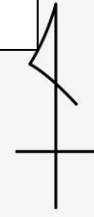
人口：110,920（令和6年4月末）
面積：196.87km2（琵琶湖98.59km2を含む）

国土地理院の基盤地図情報を使用

彦根市景観計画・彦根市歴史的風致維持向上計画をもとに松江市で作成
石高は「文久3年幕府大目付調べ」参照
地図の精度は参考程度

松本城周辺地図 (松本藩:6万石)

資料3

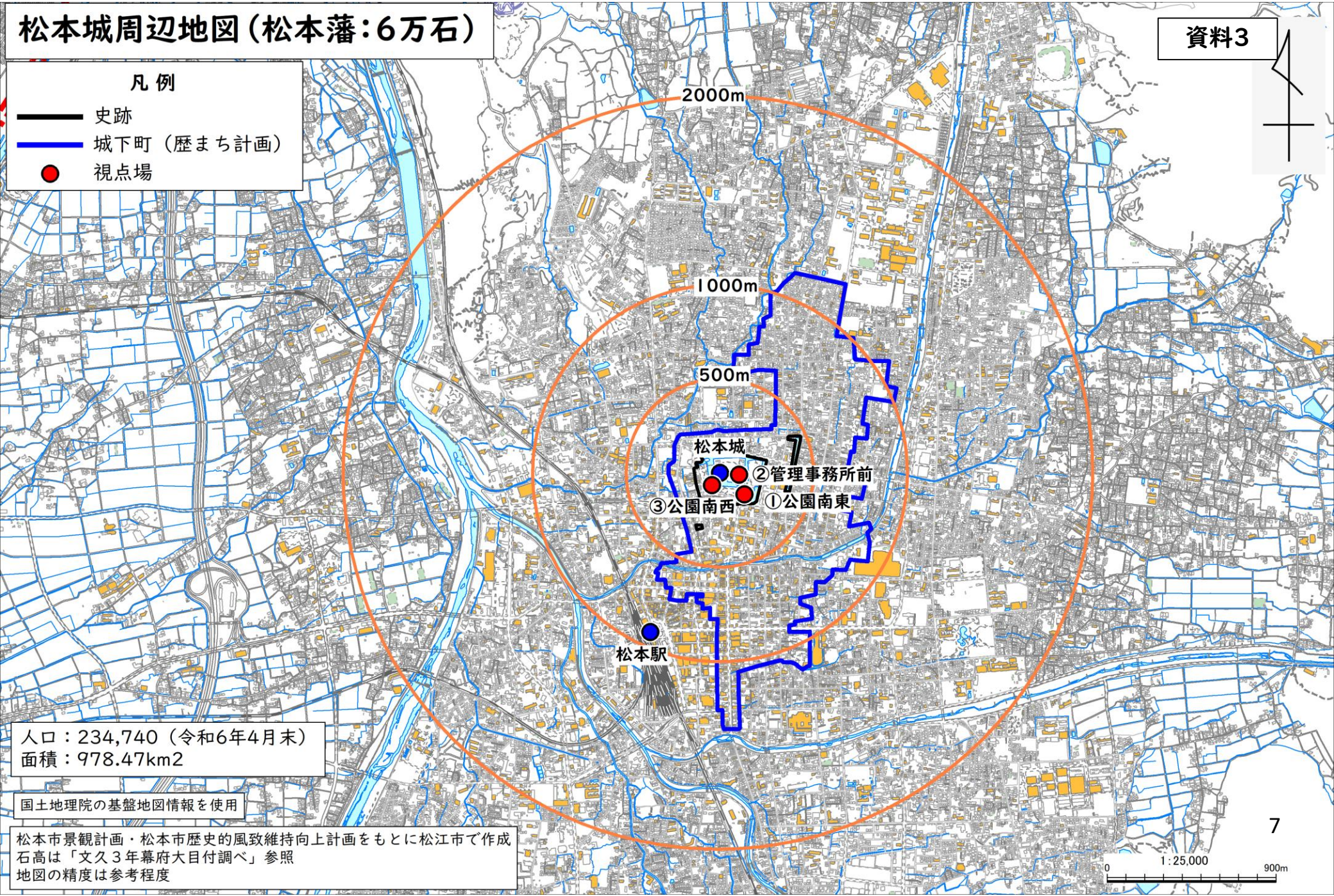


凡 例

— 史跡

— 城下町 (歴まち計画)

● 視点場



人口：234,740 (令和6年4月末)
面積：978.47km2

国土地理院の基盤地図情報を使用

松本市景観計画・松本市歴史的風致維持向上計画をもとに松江市で作成
石高は「文久3年幕府大目付調べ」参照
地図の精度は参考程度

0 1:25,000 900m

犬山城周辺地図(犬山藩:3万5千石)

資料3

凡例

- 史跡
- 城下町
- 県・市町村境界
- 視点場

